

# 海軍公報 (部内限) 第四千八百八十三號

昭和十七年九月一日(火)  
海軍大臣官房

## ○ 令 達

官房機密第一〇九六九號  
昭和十七年勅令第六百十九號ニ依リ管理スル造船事務等ハ別冊海軍省戰時船舶造修事務處理規程ニ依リ之ヲ處理スベシ

別冊ハ海軍艦政本部長ヲシテ所要ノ向ニ配付セシム  
昭和十七年八月三十一日

海軍大臣

官房機密第二五七〇號ノ二  
昭和十七年官房機密第二五七〇號中「第一百一海軍燃料廠」ノ下ニ「及第二百一海軍燃料廠」ヲ加フ

昭和十七年九月一日

海軍大臣

(参照) 昭和十七年三月二日本報

## ○ 通 牒

軍需機密燃第三八六號

昭和十七年八月三十一日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

液體燃料平均比重ニ關スル件通牒

昭和十三年軍需機密燃第八一號通牒首題ノ件左記中二號重油ノ次ニ左記ノ一項ヲ追加セラレ候

記

新二號重油 ○、九一五

(参照) 艦需品燃料取扱例規三八七頁

艦本機密第一號ノ九四八三

昭和十七年八月三十一日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

四十疋發煙筒罐體ノ件照會

首題兵器使用後不用罐體ハ最寄軍需部ニ還納スルコト

海軍公報 (部内限) 第四千八百八十三號

昭和十七年九月一日

九三一

ニ取計相成度  
尙各軍需部ハ幸便ノ都度之ヲ取纏メ海軍技術研究所化  
學研究部へ送付相成度

○ 辭 令

陸軍少尉 根 來 勝  
海軍省事務囑託ヲ解ク(十四月十六日海軍省)

(各通) 關東局技師 木村 正身  
關東氣象臺技師 草間 茂登

關東遞信官署遞信副事務官 大藤 一雄  
旅順方面特別根據地隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

神田 久太郎  
旅順方面特別根據地隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇  
トス(十五日同)

(各通) 海軍豫備兵曹長 川村 佐吉  
米 永 貞志

第一航空艦隊ニ於ケル水先業務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額貳千四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇  
トス(十五日同)

(各通) 千八百貳拾圓 國友 正道  
千百參拾圓 富永 重雄  
佐世保地方海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官  
待遇トス(十四月同)

陸軍少尉 弘田 龍之進  
大連地方海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額  
貳千拾圓ヲ給ス(十四月同)

專賣局部長 黒瀬 勘一  
海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金六拾五圓ヲ贈與ス  
海軍省事務囑託ヲ解ク(十四月同)

大野 藏六郎  
佐世保地方海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額貳千七百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官  
待遇トス(十四月同)

内務技師 大島 太郎  
大湊海軍建築部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(十四月同)  
内務技師 坂本 信雄

横須賀海軍建築部土木業務囑託ヲ解ク(十四月同)  
公立實業學校教諭 鳴 海 茂  
別府海軍病院ニ於ケル吳鎮守府傷痍軍人教育業務ヲ

囑託シ報酬年額四百貳拾圓ヲ贈與ス(註同)

公立中學校長兼教諭 山下 重輔

第二海軍航空廠ニ於ケル教務囑託ヲ解ク(註同)

三上 孝司

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千貳百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(註同)

興亞院書記官 三浦 清

興亞院事務官 高倉 一雄

同 藤川 種男

興亞院技師 大西 淺市

興亞院調査官 島田 靜夫

興亞院技師 坂本 尙

興亞院書記官 加藤 一雄

興亞院調査官 阿部 勇

興亞院事務官 榊原 二郎

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(註同)

各、參千六百圓 海軍豫備中尉 佐藤 清三

(通) 貳千五百四拾圓 同 佐藤 修

海軍省事務囑託ヲ解キ第十一特別工作部ニ於ケル業

務ヲ囑託シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス

岸本 六三郎

南西方面艦隊ホルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ

部内限奏任官待遇トス(以上ハ同)

岡本 禹一

軍令部調査事務囑託ヲ解キ第一南遣艦隊ニ於ケル事

務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待

遇トス(註同)

海務院技手 北見 正成

海軍省事務ヲ囑託ス(註同)

小林 備

南政方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏

任官待遇トス

陸軍少尉 安藤 貞之助

横須賀海軍工廠ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額四千

貳百圓ヲ給ス(以上ハ同)

陸軍主計中尉 濱口 麟藏

海軍省事務ヲ囑託ス

茂木 順三郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上

ハ同)

南西方面艦隊ボルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト ス <small>(八百圓同)</small>	小國 安藏	東京高等工藝學校教授 寺畑 助之丞	海軍省事務ヲ囑託ス	加藤 鬼頭太 德永 正三	海軍省事務ヲ囑託ス	參千六百六拾圓 千八百貳拾圓	海軍省事務ヲ囑託ス	但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官 待遇トス <small>(以上八百圓同)</small>	海軍主計特務中尉 町田 利勝	第二遣支艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク <small>(八百圓同)</small>	專賣局參事 平田 丈松	海軍省事務ヲ囑託ス	海軍豫備少佐 秋吉 七郎	海軍省事務ヲ囑託シ報酬年額千八百圓ヲ給ス	今井 忍	海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス	鐵道調査部書記官 中村 豊四郎	鐵道省事務官 小川 秀之助	
(各通)	同	鐵道技手	海軍省事務ヲ囑託ス	海軍造兵中將 谷村 豊太郎 菱川 万三郎	海軍艦政本部ニ於ケル事務ヲ囑託ス	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	海軍艦政本部ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス	但シ報酬年額四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一
(各通)	同	鐵道技手	海軍省事務ヲ囑託ス	海軍造兵中將 谷村 豊太郎 菱川 万三郎	海軍艦政本部ニ於ケル事務ヲ囑託ス	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	海軍艦政本部ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス	但シ報酬年額四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一
(各通)	同	鐵道技手	海軍省事務ヲ囑託ス	海軍造兵中將 谷村 豊太郎 菱川 万三郎	海軍艦政本部ニ於ケル事務ヲ囑託ス	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	海軍艦政本部ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス	但シ報酬年額四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一	海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス	從六位 小野 輝雄 吉武 嘉一

		(通各)		貳百圓	同	篠原登
				貳百五拾圓	電氣試験所技師	河野廣輝
				貳百圓	同	岡田實
				貳百圓	同	仙波猛
				貳百圓	遞信技師	米澤滋
				貳百圓	電氣試験所技師	根岸博
				貳百圓	遞信技師	西崎太郎
				貳百圓	電氣試験所技師	關壯夫
				貳百圓	同	木村六郎
				貳百圓	同	藤木久男
				貳百圓	同	三浦伊登美
				貳百圓	同	河野哲夫
				海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ報酬年額		
				(各頭書ノ通)ヲ贈與ス		
				從七位		
				木名瀬松壽		
				高村悟		
				小林久雄		
				三熊文雄		
				鈴木武二		
				細野子馬夫		
				井出村柳助		
				(各通)		
				從五位		
				難波捷吾		
				安西素一		
				黒川信一		
				中村清		
				三木七郎		
				藤田徳彌		
				鈴木桂二		
				松山喜八郎		
				山下彰		
				鷺野松壽		
				瀬戸武		
				堀江政雄		
				野村達治		
				尾形篁夫		
				從六位		
				塚田太郎		
				白水常雄		
				仲上稔		
				宮憲一		
				酒井貞雄		
				深田雅夫		

海軍公報 (部内限) 第四千百八十三號 昭和十七年九月一日

九三五

海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス  
 但シ報酬年額貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
 (各通) 正七位勳七等 佐藤 嘉一  
 原 爲吉 佐藤 勝信  
 高木 哲 大島 信太郎  
 支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス  
 但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
 (各通) 千參百圓 福原 登  
 山口 茂雄  
 東京在勤海軍武官府ニ於ケル業務ヲ囑託ス  
 但シ報酬年額參百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
 佐藤 馨夫  
 海軍豫備兵曹長 横井 譽  
 名古屋在勤海軍武官府ニ於ケル業務ヲ囑託ス  
 但シ報酬年額參百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
 增田 日男  
 南西方面艦隊セラム民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
 地方警視 染原 精藏  
 吳鎮守府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク 同 百武 伊造  
 吳鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス  
 飯島 正光  
 (各通) 大山 文武  
 芳野 重正  
 海軍施設本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス  
 海軍豫備機關少尉 高柳 保次  
 海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス(以上九四同)  
 海軍技師 廣瀬 義信  
 浦賀海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艤裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス(九四同)  
 支出官 海軍省經理局長)  
 海軍中佐 小倉 正身(高波)  
 驅逐艦高波審議委員ヲ命ス(九四同)海軍艦政本部)

○ 雜 款

○司令砲艦變更  
第五砲艦隊司令ハ八月十日司令砲艦ヲ日海丸ニ變更セリ

○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

司令、機關長、軍醫長、主計長宛 珠江丸  
(第六十驅 潛隊)

神戸市神戸區山本通一丁目五一番地  
追テ右ハ配達ノ便宜上變更セルモノニシテ廳舎ノ移轉ニハ無之爲念

(神戸地方海軍人事部)

○關釜連絡船乗船券ニ關スル件

關釜連絡船ニ依リ赴任ノ准士官以上ニシテ内地停車場ニ於テ豫定ノ連絡乗船券入手困難ナル向ハ當警備府ニ於テ交渉可致ニ付本府副官宛申込相成度  
追テ右ノ場合ニ於テハ下關運輸事務所船舶係ニテ乗船指定ヲ受ケラレ度

(鎮海警備府)

○事務所設置

特設海軍燃料廠補給部九月一日麴町區霞ヶ關三丁目一番地海軍省第三分室(舊衆議院跡)ニ設置シ事務ヲ開

始ス但シ購買係ノミハ經理局第五課別室  
追テ電話左ノ通

機 械 科	勞 務 科	會計科		部 長 室	省 内	市 内
		一 般	購 買 係			
同	七八九	七八九	六七四	五九五	銀座	一六〇九
同	七〇八八	七〇八八	七四九〇			
同	二〇一六					
同	一一〇四					

(註) 第一百一海軍燃料廠補給部事務ハ一切之ヲ繼承  
(特設海軍燃料廠補給部)

○開設  
第二魚雷調整班ヲ八月二十五日吳潛水艦基地隊内ニ開設セリ

○事務所撤去

海軍大田(實)部隊司令部殘務整理事務所ヲ八月三十一日撤去セリ  
追テ自後處理ヲ要スルモノハ横須賀海軍軍需部第二課 海軍機關特務少尉渡邊馨宛送付相成度

# 海軍公報 (部内限) 第四千八百八十四號

昭和十七年九月二日(水)

## 海軍大臣官房

### ○訓示

官房機密第一〇一六號

能率増進ニ關シ各廳長ニ訓示

大東亞戰爭勃發以來幾多困難アリシニ拘ラズ各廳克ク之ヲ排除シテ其ノ機能ヲ發揮シ作戰遂行ト戰備充實トニ支障ナカラシメタルハ本大臣ノ最モ満足スル所ナリ今ヤ戰局ノ進展ニ伴ヒ作戰ノ要求ハ益々多キヲ加ヘ剩ヘ人員施設資材ノ供給ハ益々逼迫ヲ告ゲツツアリ愈々各廳事務ノ圓滑簡捷ヲ圖ルト共ニ作業能率ヲ極度ニ發揮シ以テ作戰ノ要求ニ即應シツツ廳大ナル戰備軍備ヲ急速整備スルコト刻下焦眉ノ急務ナリ

限リアル人員施設資材ヲ以テ克ク其ノ目的ヲ達成スルコト素ヨリ容易ノ業ニ非ズト雖モ尙研鑽精覈人事ノ盡スベキ餘地ナシトセズ齎ツテ帝國海軍各部ノ狀況ヲ見ルニ事務ノ澁滯、作業能率發揮不充分ノ事例必ズシモ尠カラザルヤニ見受ケラル須ク速ニ此ノ弊ヲ一掃シ拔

本塞源のニ匡救調整シ以テ時局ニ對應スルコト最モ緊要ナルヲ痛感ス

今回中央ニ於テ部内各般ノ事務及作業ノ能率増進ニ付速ニ調査研究ヲ遂ゲ之ガ改善ニ對スル具體策ヲ樹立シ緊要ナル部面ヨリ至急實行ニ着手スルニ資スル爲能率増進對策委員會ヲ設置セリ

各廳ニ於テモ前述ノ趣旨ヲ體シ能率増進ニ關シ事細大トナク調査研究ヲ遂ゲ具體的對策ヲ樹立シ些細ナル事項ト雖モ忽ニセズ處理可能ノモノヨリ速ニ之ヲ實行ニ移シ士氣ノ振作昂揚ト相俟ツテ一層全能發揮ニ遺憾ナキヲ期スベシ

昭和十七年九月一日

海軍大臣

### ○令達

官房機密第一〇七一二號

昭和十六年官房機密第一一四三七號中左ノ通改正ス

海軍公報 (部内限) 第四千八百八十四號 昭和十七年九月二日

九三九



昭和十七年八月二十五日

海軍大臣

第一號供給擔任區分中特設設營隊名ノ欄「第十一、第十五設營隊」ヲ「第十一、第十五、第十八設營隊」ニ、「第十三、第十四設營隊」ヲ「第十三、第十四、第十六設營隊」ニ改ム

(参照) 昭和十六年官房機密第一一四三七號ハ特設設營班ニ要スル機核、器具及材料ノ供給及整理ニ關スル件ナリ(機密會計法規類集一一五頁)

官房機密第一〇七九五號

昭和十七年十一月卒業ノ各科少尉候補生ノ實務練習ハ昭和十五年達第百三十五號、第百三十六號及第百三十七號ノ各實務練習規則ニ依ルコトナク左ニ依リ之ヲ實施ス

昭和十七年八月二十八日

海軍大臣

一 卒業直後ノ實習

(イ) 實習艦艇

海軍少尉候補生	武藏、日向、扶桑、山城	長門、陸奥、扶桑	配乗員數
科別	配乗先	配乗員數	
			五八四名

海軍機關少尉候補生	陸奥、扶桑、山城	一五名
海軍主計少尉候補生	伊勢、日向	四三名

(備考) (イ) 一般ノ配乗員數ハ各科毎ニ可及的平均セシムルモノトス

(ロ) 情況ニ依リ配乗艦船ヲ變更スルコトアルベシ

(ロ) 實習期間

自昭和十七年十一月中旬至昭和十八年二月中旬 約二月

(ハ) 教育ノ程度

當面ノ本務遂行ニ必要ナル基礎的識能ヲ付與スルヲ主眼トシ各科少尉候補生實務練習規則所定ノ實習項目中左ノ項目ニ重點ヲ置キ教育ス

(一) 海軍少尉候補生

勤務(就中當直勤務短艇指揮及分隊士勤務)

運用術、航海術、高角砲及機銃ニ關スル事項

其ノ他ノ術科ハ配乗各艦ニ就キ其ノ概要

(二) 海軍機關少尉候補生

勤務(就中機關科當直勤務及分隊士勤務)

機關術、工作術ノ概要

<p>其ノ他ノ術科ハ配乗各艦ニ就キ其ノ概要</p> <p>(三) 海軍主計少尉候補生 主計科初級士官勤務ノ基礎的事項 指導要領</p> <p>(二) 候補生指導計畫ハ艦隊ノ行動作業ヲ基礎トシテ適宜按割スルモノトス</p> <p>(一) 各科少尉候補生第一期實務練習ノ指導ノ要領ニ準ジ指導スルモノトス</p> <p>(三) 本實習ノ終期ニ簡單ナル考查ヲ行フモノトス</p> <p>(ホ) 指導關係員</p> <p>(一) 本實習中海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ヨリ左ノ通臨時ニ教官ヲ聯合艦隊ニ派遣ス</p> <p>兵學校 二名 機關學校 一名 經理學校 一名</p> <p>(二) 候補生配乗ノ各艦艦長ハ各科候補生實務練習規則ニ準ジ指導關係員ヲ定メ候補生ノ指導ニ當ラシムルモノトス</p> <p>二 前項實習後ノ教育</p> <p>昭和十八年一月中旬ヨリハ各艦艇ニ配乗シ同年四月</p>	<p>末日迄ハ前項統一教育ト密接ナル連絡ヲ執リ左ノ各號ニ依リ實習セシム</p> <p>(一) 士官室若ハ士官次室ノ中少尉ノ中適當ナルモノ一名ヲ指導官附トシテ指導ニ當ラシム</p> <p>(二) 各候補生ヲシテ各固有任務ヲ完遂セシムル如クスルノ外努メテ各艦ニ於ケル各種訓練作業ノ機會ヲ捉ヘテ一般事項ヲ習得セシム</p> <p>三 成績調査並ニ報告</p> <p>(イ) 第一項實習中各候補生ニ就キ其ノ實務並ニ考查ノ成績ニ依リ全點ヲ一〇〇〇點トスル點數ヲ付與ス但シ各科目ニ對スル全點ニ關シテハ聯合艦隊司令長官ノ定ムル所ニ依ル</p> <p>(ロ) 第一項實習ニ於テ候補生配乗ノ各艦艦長ハ練習ノ終期ニ於テ成績表(意見ヲ附ス)實務練習計畫ノ經過概要及所見ヲ附シタル實務練習報告ヲ作製ノ上聯合艦隊司令長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ海軍大臣ニ提出スベシ</p> <p>官房機密第一一〇一五號</p> <p>昭和十七年九月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>能率増進對策調査委員會委員長殿</p>
--	--

海軍公報(部内限) 第四千八百八十四號 昭和十七年九月二日

能率増進對策ニ關スル件訓令

大東亞戰爭完遂ノ爲必要トスル戰備軍備ハ急速之ガ整備ヲ要スル所施設要員資材等各種ノ制限ヲ受クルコト眞ニ己ムヲ得ザル現狀ニ於テ之ガ打開ノ爲ニハ一層海軍各官廳ノ事務ヲ活潑簡捷ナラシメ且各作業廳及部外管理工場等ノ作業能率ノ向上ヲ圖ルノ要切ナルモノアリ

委員長ハ委員ヲ督シ海軍各廳並ニ部外管理工場等ノ能率増進對策ニ付關係各部ト緊密ナル連絡ヲ保テツツ調査研究ヲ進メ隨時其ノ成果ヲ報告スルト共ニ關係各部ニ通報スベシ

官房第五三一九號

昭和十七年海軍省令第二十五號第十二條ノ規定ニ依ル旅費ハ當分ノ間左ニ依リ之ヲ支給ス

昭和十七年九月二日

海 軍 大 臣

一 被徵用者其ノ家族危篤又ハ死亡ノ際許可ヲ受ケ歸省スルトキ及被徵用者危篤又ハ死亡ノ際所轄長ノ通知ニ依リ其ノ家族出頭スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

二 本令ニ於テ被徵用者ト稱スルハ海軍ニ徵用セラレタル者ニシテ海軍ノ雇員、傭人、工員又ハ傭員ニ準ズルモノヲ謂ヒ家族トハ被徵用者ノ配偶者、直系卑族、直系尊族及戸主ヲ謂フ

被徵用者危篤又ハ死亡ノ際ニ於テ前項ノ家族ナキトキ又ハ家族事故ニ因リ出頭シ難キトキハ被徵用者ノ親族中所轄長(所轄長被徵用者ト同一地ニ在ラザルトキハ被徵用者ト同一地ニ在ル海軍病院長其ノ他ノ關係廳長以下之ニ同ジ)ノ認ムル者一人ヲ限リ其ノ家族ト看做シ本令ヲ適用ス

三 旅費ハ鐵道賃、軌道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料及食卓料ノ七種トス

四 本令ニ依ル旅費ハ出張ノ例ニ依リ且ツ同一事由ニ付各一回ヲ限リ之ヲ支給ス

五 被徵用者歸省旅費ハ被徵用者ノ就業廳所在地ヨリ家族ノ居住地迄往返旅費ヲ支給ス但シ其ノ額ハ被徵用者ノ就業廳所在地ヨリ家族ノ現在地迄ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ旅費ハ公務旅行中又ハ乗組艦船航行中ノ者ニ在リテハ往路ハ出發地ヲ起點トシ返路ハ指定歸投地ヲ終點トシテ各家族ノ居住地及現在地間ノ旅費ヲ比

較シ其ノ少額ニ付之ヲ支給ス

六 家族出頭旅費ハ被徵用者危篤又ハ死亡ノ際所轄長ノ通知ニ依リ出頭シタル被徵用者ノ家族一人ニ限り第二號ニ掲グル家族ノ順序ニ依リ之ヲ支給ス

七 家族出頭旅費ハ家族ノ居住地ヨリ被徵用者ノ就業應所在地迄ノ往返旅費及到着ノ日ヨリ起算シ三日以内ノ滞在旅費ヲ支給ス但シ家族居住地以外ノ地ヨリ直ニ出頭スルトキノ往返旅費ハ家族ノ居住地及現在地ヨリ被徵用者ノ就業應所在地迄ノ旅費額ヲ比較シ其ノ少額ニ付之ヲ支給ス

前項ノ往返旅費ハ被徵用者公務旅行中ノ場合ニ於テハ被徵用者ノ現在地迄、被徵用者私事旅行中ノ場合ニ於テハ其ノ現在地及就業應所在地（乗組艦船航行中ニ在リテハ私事旅行ノ爲ノ出發地）迄家族居住地及現在地ヨリノ旅費額ヲ比較シ其ノ少額ニ付之ヲ支給ス

八 被徵用者危篤ニ因リ家族出頭ノ途中又ハ出頭滞在中被徵用者死亡シタルトキハ其ノ出頭ヲ被徵用者死亡ニ因ル家族ノ出頭ト看做ス

被徵用者危篤ニ因リ家族出頭シタル後被徵用者死亡シタルトキハ死亡ノ日ヨリ起算シ更ニ三日以内ノ滞在旅費ヲ支給ス此ノ場合ノ旅費ハ到着ノ日ヨリ起算シ通ジテ滞在五日ヲ超ユルコトヲ得ズ

九 本令ニ該當セザル事由ニ依リ被徵用者歸省中其ノ家族危篤ニ陥リ又ハ死亡シタルトキ及家族出頭中被徵用者危篤ニ陥リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ所轄長必要アリト認メタルトキハ被徵用者ニ在リテハ返路旅費、家族ニ在リテハ滞在及返路旅費ニ限り之ヲ支給スルコトヲ得但シ滞在旅費ハ危篤又ハ死亡ノ日ヨリ起算シ各三日以内トシ危篤及死亡ヲ通ジテ五日ヲ超ユルコトヲ得ズ

十 本令ニ規定ナキ事項ニ付テハ海軍内國旅費規則ヲ準用ス

官房第五三二〇號  
昭和十五年官房第五九一一號中左ノ通改正ス  
昭和十七年九月二日

海軍大臣

第一項第三號ヲ第五號ニ繰下グ  
二 新兵、甲種及乙種飛行豫科練習生  
三 見習尉官ニシテ採用後引續キ教育中ノ者但シ勤務ヲ指定セラレタル場合ヲ除ク

海軍公報（部内限）第四千八百八十四號 昭和十七年九月二日

九四三

四 俸給、給料又ハ報酬ヲ受ケザル者竝ニ一時ノ報  
酬ヲ受クル者

附 則

本令ハ昭和十七年九月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(参照) 昭和十五年官房第五九一一號ハ艦船部隊官衙及學校ニ勤務  
スル軍人軍屬ニ増俸支給ノ件ナリ

官房機密第一一〇四三號

昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス

昭和十七年九月二日

海 軍 大 臣

第一項第六號中「但シ補缺員、修學中ノ者ヲ除ク」ヲ  
「但シ勤務ノ指定ナキ補缺員及修學中ノ者ヲ除ク」ニ改  
ム

附 則

本令ハ昭和十七年九月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(参照) 昭和十六年官房機密第一二六三九號ハ戰地ニ在ラザルモ特  
別ノ命令ニ依リ對敵行動ヲ取ル者ノ給與ニ關スル件ナリ

(昭和十六年十二月三十一日(部内限)公報)

官房機密第二八二二號ノ四

昭和十七年官房機密第二八二二號中左ノ通改正ス

昭和十七年九月二日

海 軍 大 臣

第一號中「但シ補缺員、修學中ノ者ヲ除ク」ヲ「但シ  
勤務ノ指定ナキ補缺員及修學中ノ者ヲ除ク」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十七年九月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(参照) 昭和十七年官房機密第二八二二號ハ戰地ニ在ラザルモ特別  
ノ命令ニ依リ對敵行動ヲ取ル部隊ノ指定ノ件ナリ(昭和十  
七年三月七日(部内限)公報)

○ 通 牒

官房第五二八一號

左ニ對スル臨時海軍規格ヲ別紙ノ通定ム

別紙ハ海軍艦政本部ニ於テ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和十七年九月一日

海 軍 大 臣

- 一 銀鋼製罐用繼目無ドラム及管寄
- 二 鋁用デー鋼材

官房第五三二二號

昭和十七年九月二日

關係各廳長殿

海軍省 副官

海軍公報配付ノ件通牒

第一線方面艦船ニシテ海軍公報ノ遲着甚ダシク事務處理上支障尠カラザルモノアル趣ナル處右ハ艦船ノ行動變更多キニ基ク郵便ノ廻送遅延ニ依ルモノナルヲ以テ當分ノ間當該艦船宛ニ郵送(急送扱)スルノ外別ニ艦船用豫備トシテ左記ノ通配付セラレ候條未受領ノ艦船部隊ハ自今最寄根據地隊司令部ニ於テ受領相成度追テ郵便物ノ速達上艦船ハ郵便物ノ發送先ヲ必ず通知相成度

記

配付先	部數	記事
第四根據地隊司令部	二〇	未受領ノ艦船ニ對シ一部宛配付スルモノトス
第十特別根據地隊司令部	二〇	
第二十三同	二〇	
第三十一同	一〇	

官房機密第一二八〇號ノ一七

昭和十七年九月二日

海軍省 副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ一)中「ガダルカナル」  
 壹壹九」ヲ、同(其ノ二)中「バスコ・テ四六」ヲ、  
 同(其ノ四)中「サマリンダ」セ參參」ヲ加フ  
 附録部隊區別符表(其ノ一)中左ノ如ク加フ

第八海軍經理部	ウ四參
第八海軍建築部	ウ四五
第十八設營隊	ウ壹七五
第十六設營隊	ウ壹七六

同(其ノ二)中「第百一海軍燃料廠」ヲ削ル

海軍公報(部内限) 第四千八百八十四號

昭和十七年九月二日

九四五

同	(其ノ四) 中左ノ如ク加フ
第百一海軍燃料廠	セ壹壹
第百二海軍燃料廠	セ壹貳
支 廠	セ壹參

○ 辭 令

能率増進對策調査委員會委員長ヲ命ス

海軍中將 澤本 頼雄  
 同 片桐 英吉  
 同 小池 四郎  
 同 岩村 清一  
 同 御宿 好  
 同 副島 大助  
 海軍少將 岡 敬純  
 同 鈴木 義尾  
 同 佐藤 源藏  
 同 大西 瀧治郎  
 同 徳永 榮  
 同 中原 義正

(幹事長)

(各通) (幹事)

(幹事)

(幹事)

(幹事)

同 保科善四郎  
 同 細谷信三郎  
 同 西尾秀彦  
 海軍軍醫中將 田中肥後太郎  
 海軍主計中將 武井大助  
 海軍大佐 橋本象造  
 同 松崎 彰  
 同 長谷真三郎  
 同 中村 勝平  
 同 篠田 勝清  
 同 山本 親雄  
 同 栗原 悦藏  
 同 三浦 速雄  
 同 山本 善雄  
 同 杉浦 矩郎  
 海軍中佐 吉田利喜藏  
 海軍機關大佐 渡邊瑞彦  
 同 伴 義一  
 海軍軍醫大佐 大久保 信  
 海軍主計大佐 早川 貞吉  
 同 稻岡 新

能率増進對策調査委員會委員ヲ命ス  
同 青木 大吉

海軍大佐 中瀬 泝

同 林 彙 邇

同 矢 牧 章

同 平 井 昌 平

同 岡 崎 文 勳

同 藤 田 健 六

海軍機關大佐 片 平 琢 治

同 落 合 精 一

同 浦 野 角 造

同 小 田 島 祥 吉

海軍軍醫大佐 桑 原 秀 雄

海軍主計大佐 島 居 新 一

同 宮 本 正 光

同 島 津 惣 次

同 海軍技師 權 藤 博

海軍機關少佐 藤 原 一 郎

同 海軍省兵備局

能率増進對策調査委員會臨時委員ヲ命ス(以上請海軍省)

第四課勤務ヲ命ス(海軍省兵備局)

第五課勤務ヲ命ス(海軍省經理局)  
海軍主計中尉 宮崎 芳明

○ 雜 款

○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

一 第十設營隊 横須賀郵便局氣付

「ウ壹〇五、ウ壹貳壹」

一 幌筵通信隊 横須賀郵便局氣付

「ウ壹〇七、ウ壹壹五」

一 第五警備隊 横須賀郵便局氣付

「ウ壹壹六、ウ壹五壹」

一 靖國丸司令部、靖國丸、伊十一潜、伊百六十九潜、伊百七十一潜、伊百七十四潜、伊百七十五潜、十月十五日迄到着見込ノモノ

横須賀郵便局氣付

「ウ五〇、ウ參七」

十月十六日以降

吳郵便局氣付

吳郵便局氣付

吳郵便局氣付

「七貳壹、七參七」

佐世保郵便局氣付

一 須磨

一 第二十一潜水艦基地隊

一 須磨

海軍公報(部内限) 第四百八十四號 昭和十七年九月二日

九四七



第二十一航空隊 横須賀郵便局氣付 〔ウ五〇 ヲ壹五六〕	第五軍用郵便所經由)	瑞鶴、龍驤 吳郵便局氣付 (第三十五軍用郵便所經由)
第十一特別工作部 佐世保郵便局氣付 〔イ〇〇 イ四參〕	第八艦隊司令部 横須賀郵便局氣付 〔ウ壹〇五 ヲ壹六四〕	水雷艇友鶴 吳郵便局氣付 (第二十五軍用郵便所經由 七四〇)
第十八設營隊 横須賀郵便局氣付 〔ウ壹壹九 ヲ壹七五〕	第五日の丸 横須賀郵便局氣付 〔ウ一〇五 ヲ一〇九〕	特務艦筑紫 吳郵便局氣付〔セ參貳〕
伊九潛司令部、伊九潛、第二潜水隊、伊十七潛、 伊十九潛、伊二十六潛、第十五潜水隊、伊三十二 潛、伊三十三潛、平安丸司令部、平安丸 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)	第一測量隊 吳郵便局氣付 〔セ參貳 七四六〕	第十六設營隊 横須賀郵便局氣付 〔ウ壹〇五 ヲ壹七六〕
翔鶴司令部、翔鶴、長良司令部、長良、嵐、秋風、 野分、舞風、風雲、夕雲、卷雲、秋雲、時津風、 天津風、初風、谷風、濱風、浦風、磯風 吳郵便局氣付 (第三十五軍用郵便所經由)	瑞風 吳郵便局氣付 (第二十三軍用郵便所留置)	特務艦知床 横須賀郵便局氣付 (ウ九〇)
辰宮丸 吳郵便局氣付 (第二十六軍用郵便所經由)	山陽丸 吳郵便局氣付〔セ貳壹留置〕	伊百七十二潛 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)
浮島丸 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)	普通扱 吳郵便局氣付 〔セ貳壹 七壹九〕	雲風 吳郵便局氣付 (第三十五軍用郵便所經由)
第三十三航空隊 航空扱 臺北郵便局氣付 (第二十六軍用郵便所經由)		

<p>一 鹿島 九月一日以降 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)</p> <p>一 第二十六航空戰隊 横須賀郵便局氣付 「ウ壹〇五」ウ壹七壹」 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)</p> <p>一 特務艦隊 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)</p> <p>隊、司令宛 軍醫長、主計長宛 隊機關長宛</p> <p>朝 顏 刈 萱 芙 蓉 (第三十二驅逐隊)</p>	<p>○事務所撤去 第三十四號驅潜艇艇裝具事務所ヲ八月三十一日撤去セ リ</p> <p>伊號第三十五潜水艦艇裝具事務所ヲ八月三十一日撤去 セリ</p>
---	---

海軍公報(部内限) 第四千八百八十四號 昭和十七年九月二日

九四九

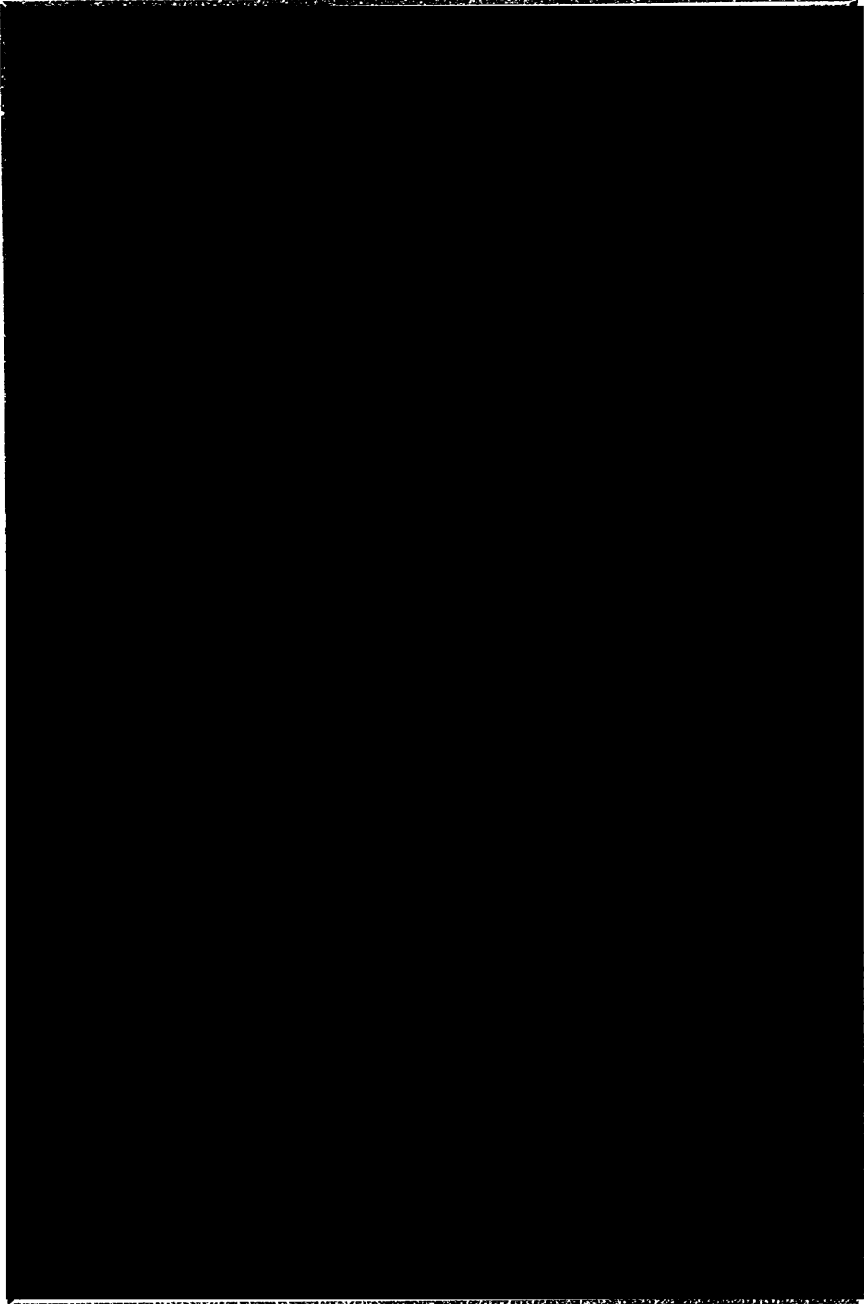
(限 内 部) 0020

海軍公報 (部内限) 號外

判 決	○ 判 決	海軍公報 (部内限) 號外
	<p>昭和十七年九月二日(水)</p> <p>海軍大臣官房</p>	

0021

海軍公報  
(部内限)  
號外



0022

海軍公報  
(部内限)  
號外

三

0023

海軍公報  
(部内限)  
號外

四

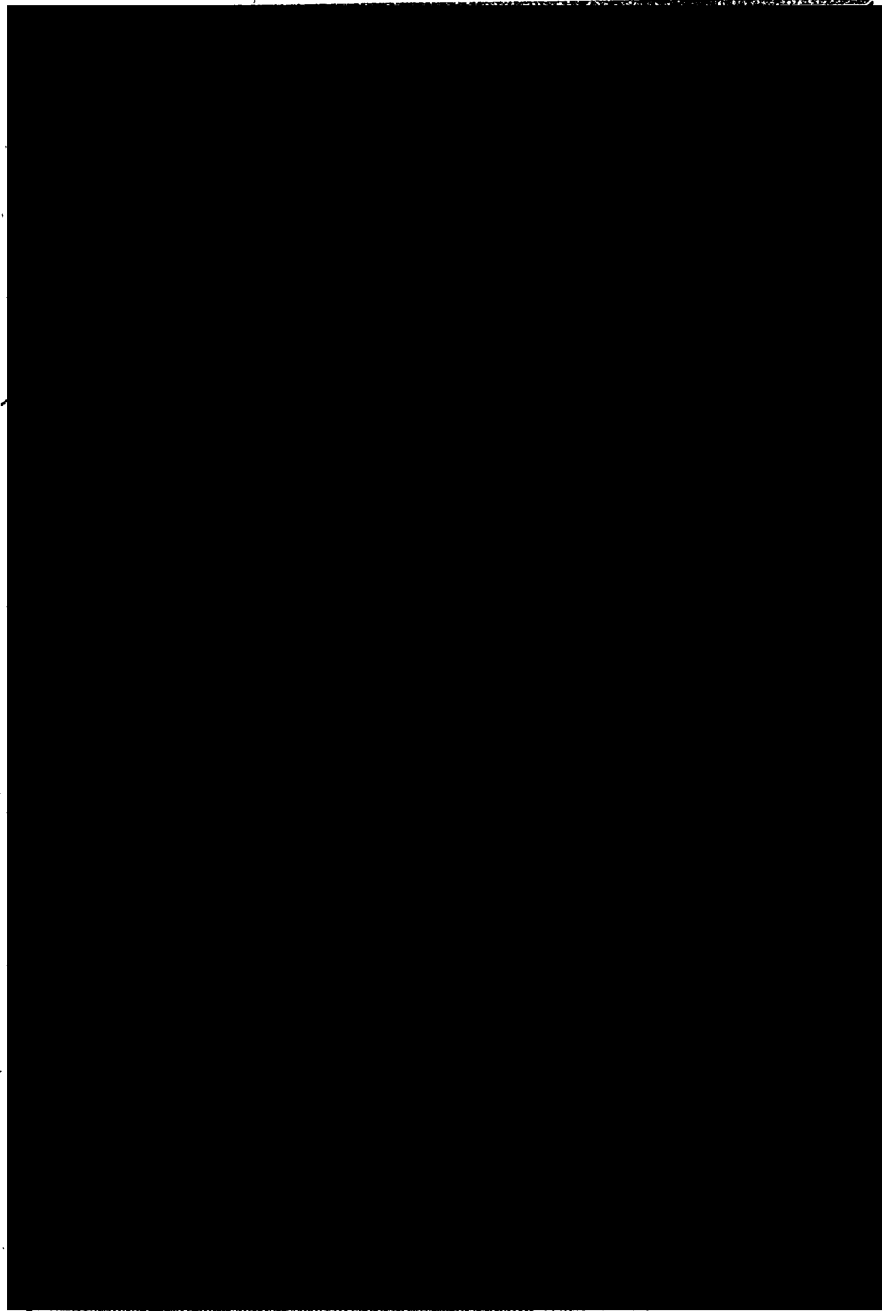
0024

海軍公報  
(部内限)  
號外

五

0025

海軍公報  
（部内限）  
號外



六

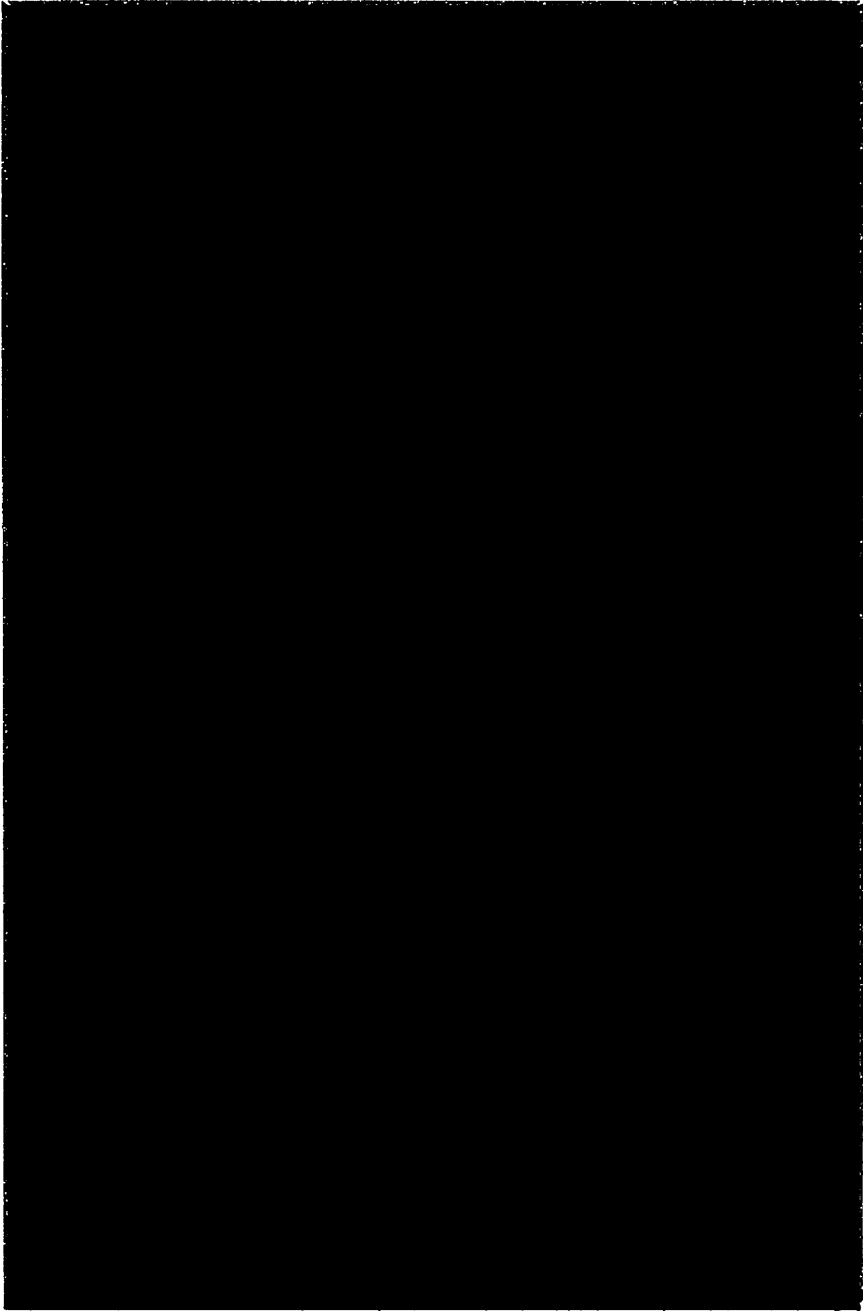


0026

海軍公報 (部内限) 號外

七

0027



海軍公報  
(部内限)  
號外

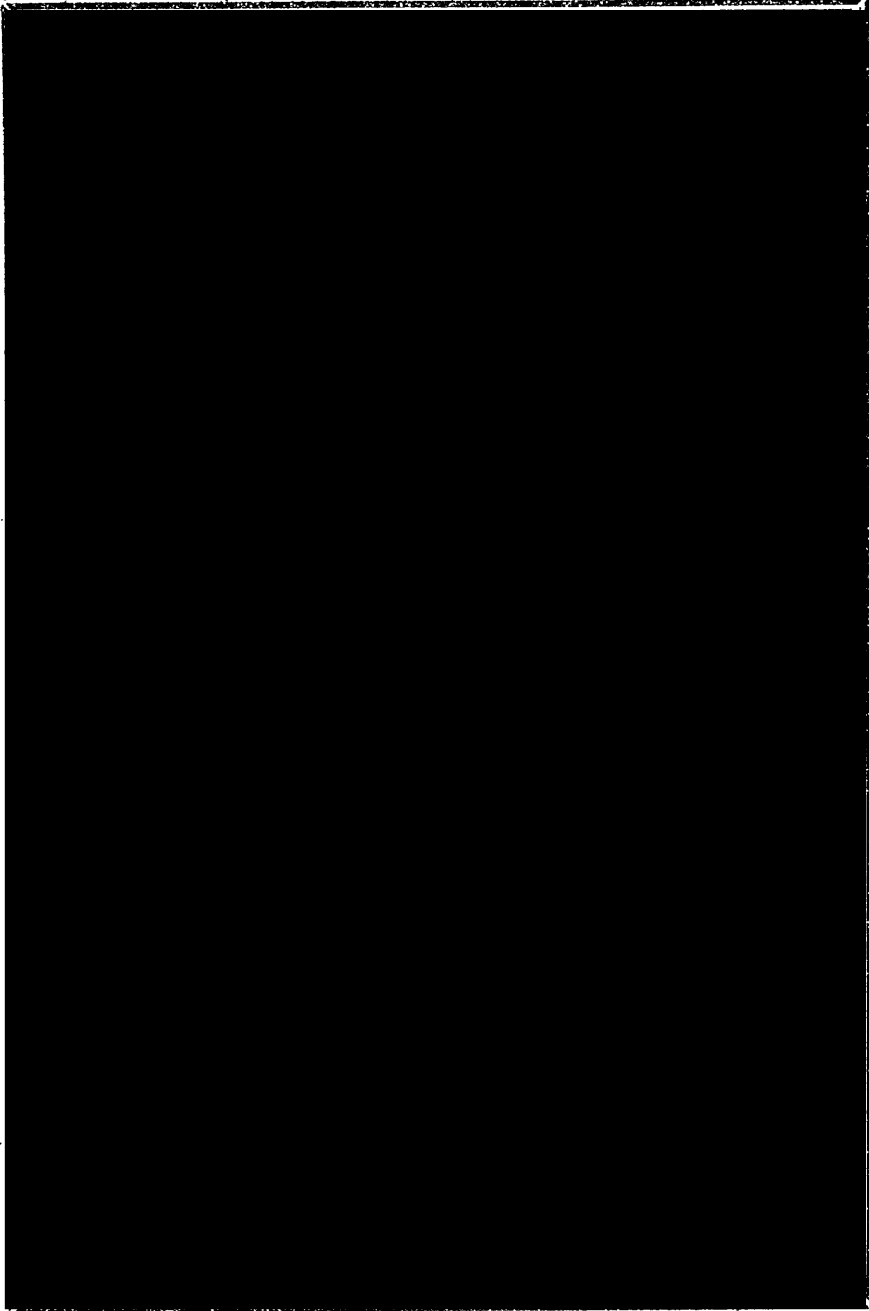
八

0028

海軍公報  
(部内限)  
號外

九

0029

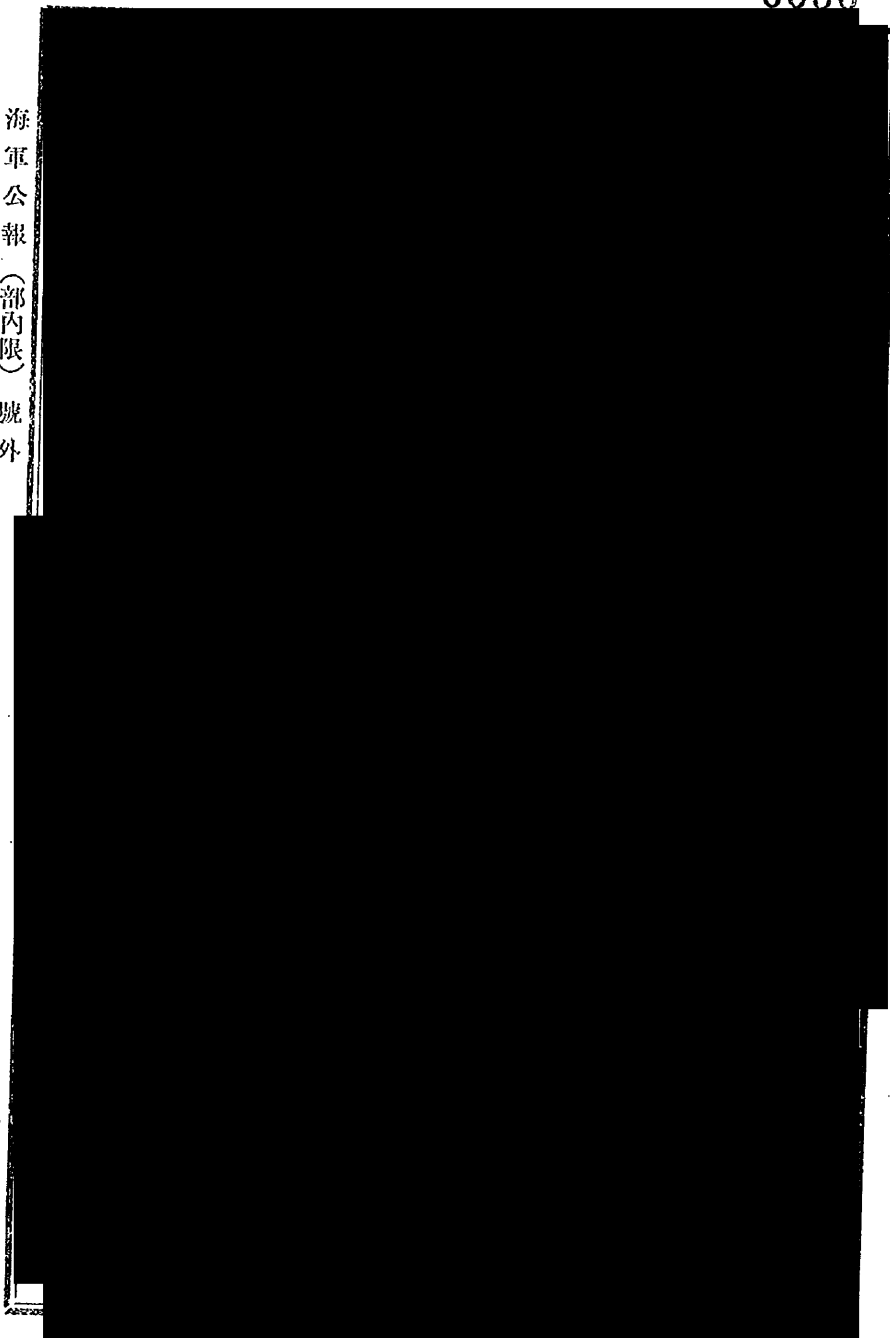


海軍公報  
(部内限)  
號外

一〇

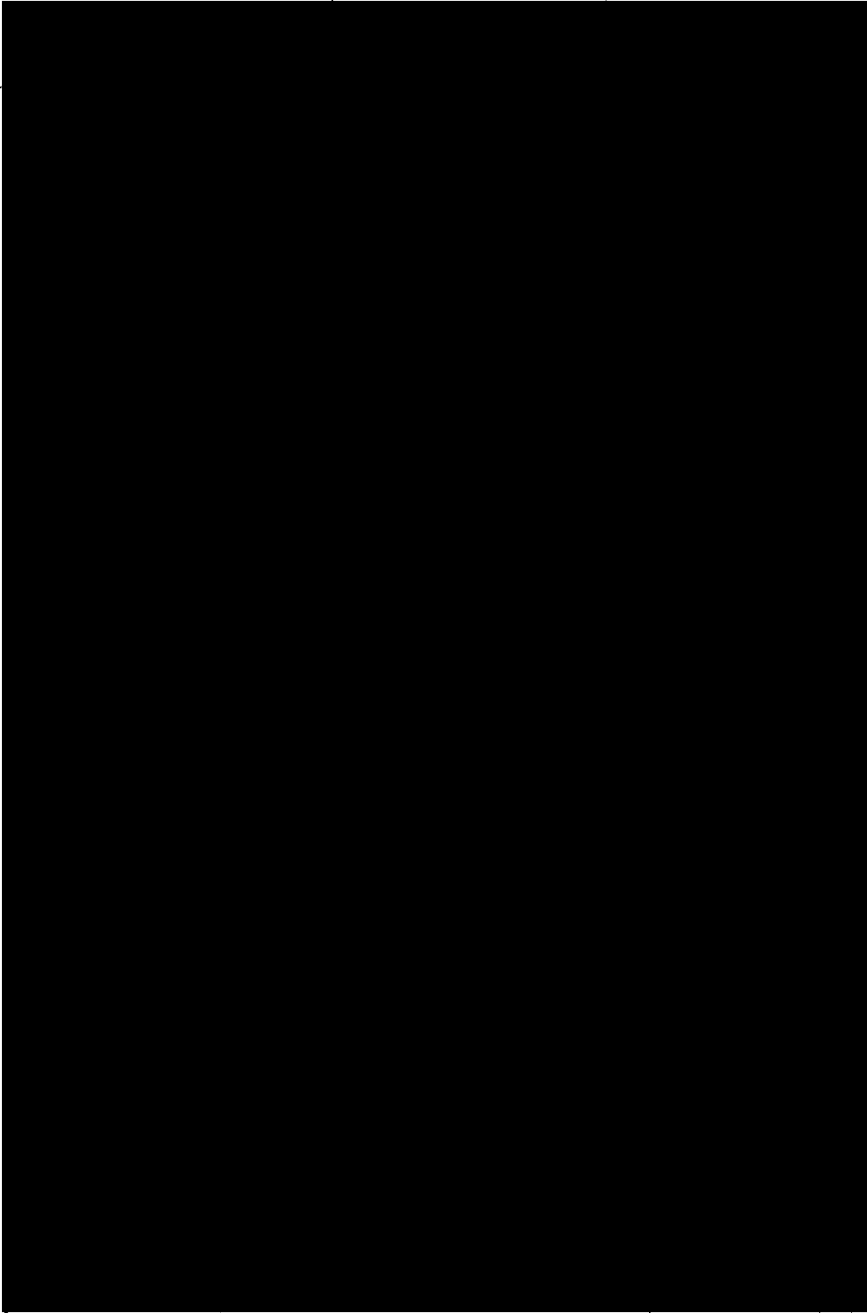
0030

海軍公報  
(部内限)  
號外



0031

海軍公報  
(部内限)  
號外



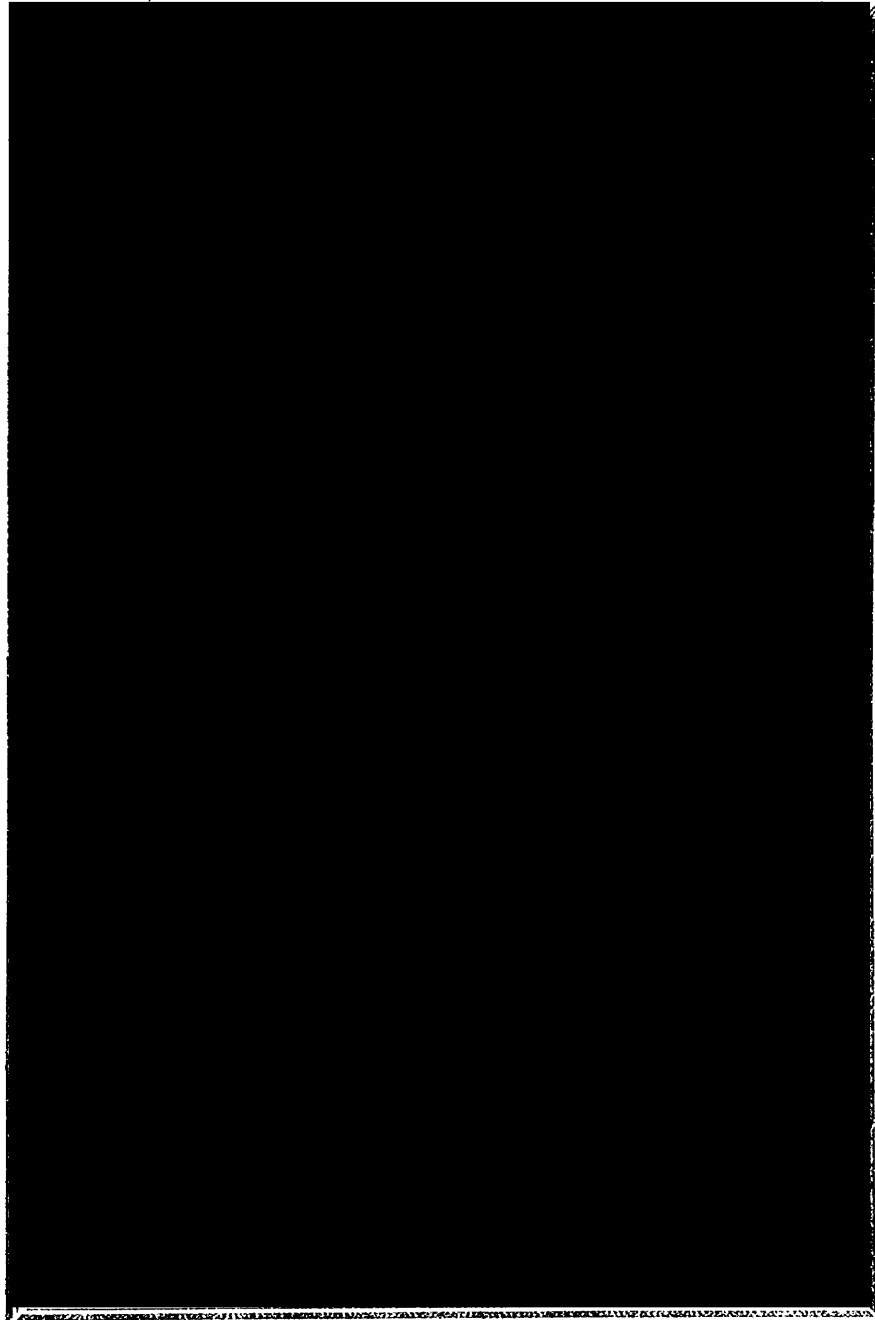
0032

海軍公報  
(部内限)  
號外

一三

0033

海軍公報 (部内限) 號外



一四

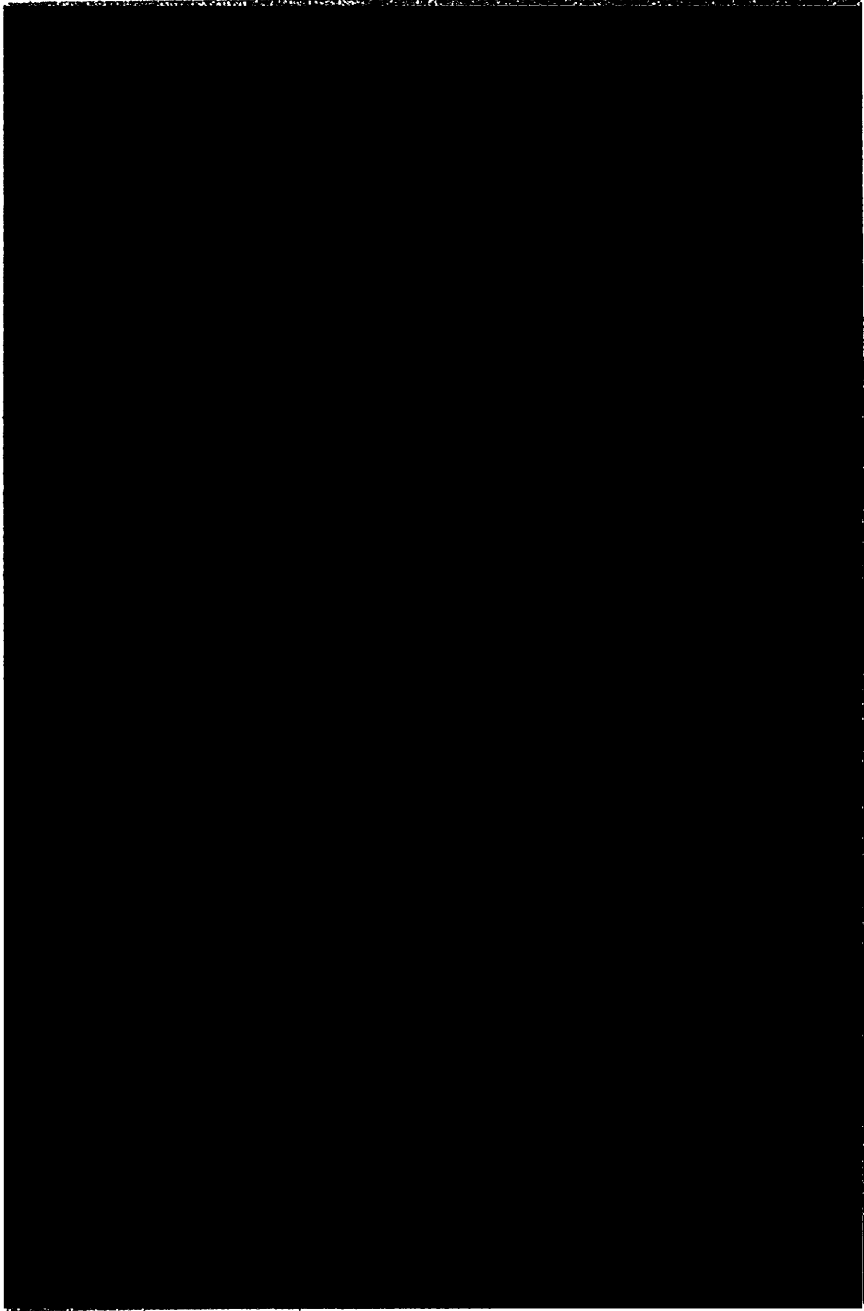


0034

海軍公報  
(部内限)  
號外

一五

0035

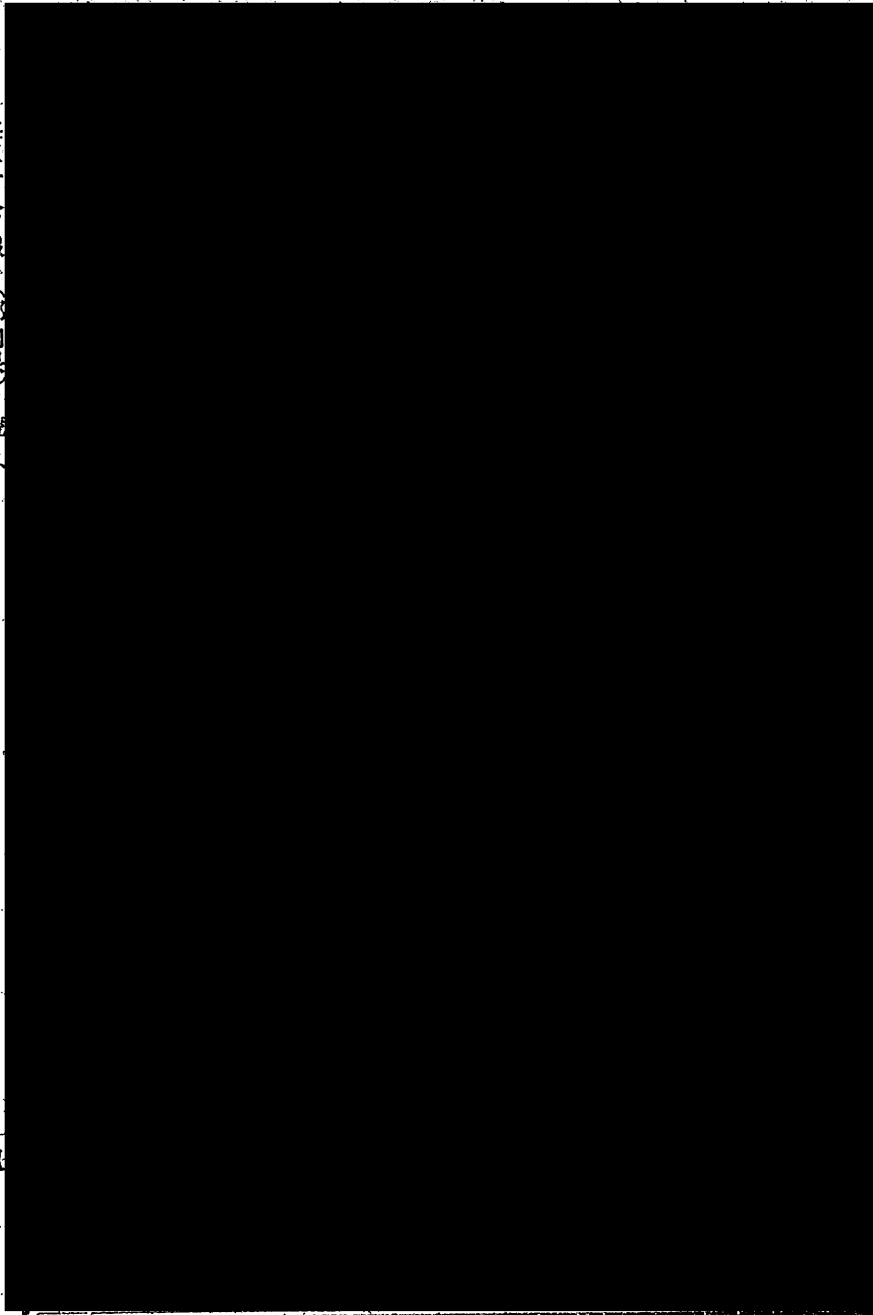


海軍公報  
(部内限)  
號外

一六

0036

海軍公報 (部内限) 號外



0037

海軍公報 (部内限) 號外

一八

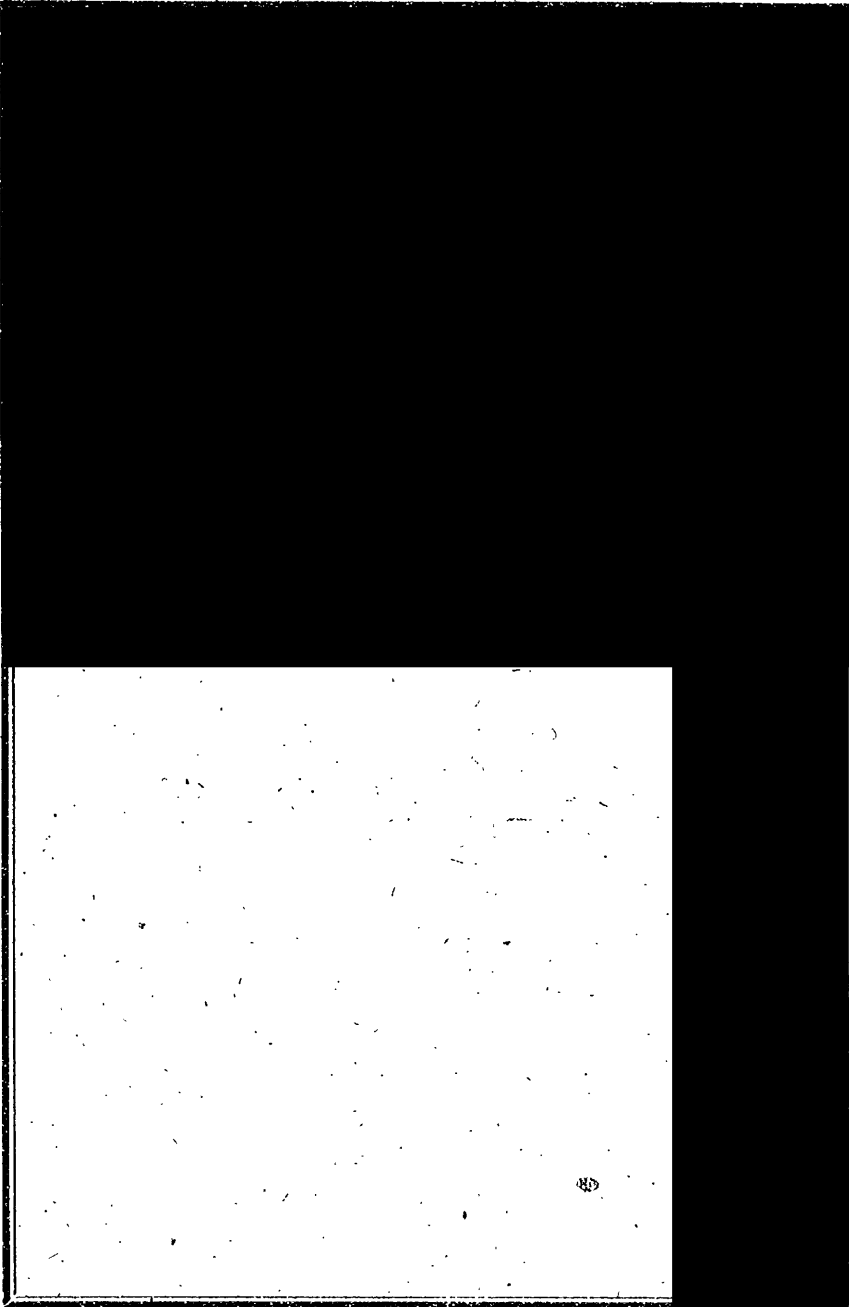
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

0038

海軍公報  
(部内限)  
號外



一九



備考

本表ノ手當ヲ受クル者ニハ昭和十七年官房第三二八二號ニ依ル被服物品ハ之ヲ給與セス

○通牒

恩第三五號ノ二

昭和十七年九月三日

海軍省 人事局長  
海軍省 醫務局長

關係廳長殿

恩給法上戰地權病(結核性疾患)者取扱ニ  
關スル件通牒

本年二月十二日附恩第三五號ヲ以テ通牒ノ首題ノ件追書中「南洋群島及新南群島ヲ含ム」ヲ「南島、南洋群島及新南群島ヲ含ム」ニ改メ昭和十六年十二月八日以後適用ノコトトシ取扱相成度

追テ本年四月一日恩給法中改正ニ依リ戰地、戰地外ノ區分廢セラレタル處本件ニ關シテハ恩給法施行令別表第三號表ノ二ニ掲グル地域ハ從來ノ規定ニ依ル戰地ニ相當スルモノトシテ取扱フコトト了知相成度

(參照)  
恩給法施行令別表第三號表ノ二

地	域
一	南島、南洋諸島及新南群島
二	支那(香港ヲ含ム)
三	佛領印度支那
四	緬甸、泰、馬來半島、蘭領東印度諸島、英領ボルネオ、ニューギニア島、ビスマルク諸島、オーストリア、比律賓諸島及ハवाई諸島並其ノ他ノ太平洋上及印度洋上ノ島嶼
五	太平洋(帝國ノ第一號ニ掲グル地域以外ノ地域及滿洲ノ沿岸ヲ除ク)及印度洋

○辭令

海軍艦政本部造船監督官兼造兵監督官  
官海軍航空本部造兵監督官海軍大佐

竹崎 馨

玉野監理長ヲ命ス

玉野監査長ヲ命ス

海軍艦政本部造船監督官兼  
造兵監督官海軍航空本部造  
兵監督官海軍機關大佐

河崎 茂治

東京監理官ヲ命ス

東京監査官ヲ命ス	海軍艦政本部造船監 督官海軍機關中佐	山本 良材
大阪監理官ヲ命ス	第三海軍燃料廠化成分部員 兼工員養成所教官吳海軍軍 需部部員海軍機關少佐	下 山 滿
廣島監理官ヲ命ス(以上九〇〇海軍省)	海軍主計兵曹長	穗積 政治
木更津海軍航空隊殘留隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經 費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三八三三〇 支出官 海軍省經理局長)	海軍少佐	明石 吉太郎
興亞丸ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經 費臨時分任出納官吏ヲ命ス	海軍主計兵曹長	吉田 貴
右同分任出納官吏ヲ免ス	同	榊原 儀海
第八十五通信隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ 爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(以上三九〇〇同)	海軍主計中佐	野中 義忠
第一課兼第二課第三課勤務ヲ命ス(九〇〇海軍省軍需 局)		

(各通) 海軍豫備中尉 奥野 長(照 月)

驅逐艦照月審議委員ヲ命ス 海軍技師 大介 彌一郎(艦本監)

驅逐艦照月審議委員ヲ免ス(以上一五五〇海軍艦政本部)

○ 雜 款

○事務所撤去  
驅逐艦高波艦裝具事務所ヲ八月三十一日撤去セリ

海軍公報(部内限) 第四千八百八十五號 昭和十七年九月三日



# 海軍公報 (部内限) 第四千八百八十六號

昭和十七年九月四日(金) 海軍大臣官房

## ○通牒

官房第五三六四號

昭和十七年九月四日

海軍次官

關係各廳長殿

海軍治療品經理規程ニ定ムル除毒用藥品  
ヲ兵器ニ保管轉換ノ件通牒

目下供用中及在庫ノ海軍治療品經理規程ニ定ムル除毒  
用藥品(一號除毒劑、二號除毒劑、三號除毒劑及四號  
除毒劑)ヲ九月一日現在ヲ以テ運用長主管兵器ニ保管  
轉換スルコトニ定メラレ候

軍務一機密第六八一號

昭和十七年九月四日

海軍省軍務局長  
海軍艦政本部長

關係各廳長殿

艦船搭載用除毒劑定額標準ノ件申進

首題ノ件當分ノ間昭和十六年四月二十一日軍務一機密  
第二七九號艦船應急用器材定額標準試行ノ件申進別表  
第一軍醫長主管治療品中品名二號除毒劑、三號除毒劑  
及四號除毒劑ノ定額標準ニ據ルコトニ定メラレ候

## ○辭令

海軍中佐 阿部 茂

船舶應急處理委員會副委員ヲ命ス

陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事ヲ命ス

軍港要港勢力標準調査委員會委員ヲ命ス

海軍少佐 宮崎 勳

船舶海難事故處理委員會委員ヲ命ス(以上九月四日海軍  
省)

## ○雜款

海軍公報(部内限) 第四千八百八十六號

昭和十七年九月四日

九五五

0043

海軍公報(部内限) 第四千八百八十六號 昭和十七年九月四日

九五六

○訂正  
九月二日令達欄官房第五三二〇號中「第一項第三號ヲ  
第五號ニ繰下グ」ヲ「第一項中第二號ヲ削リ第三號ヲ  
第五號トシ第一號ノ次ニ左ノ三號ヲ加フ」ニ訂正ス

# 海軍公報

(部内限) 第四千八百八十七號

昭和十七年九月五日(土)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房第三二八二號ノ二

昭和十七年官房第三二八二號中左ノ通改正ス

昭和十七年九月一日

海 軍 大 臣

「海軍給與令第十表中」ヲ「昭和十七年官房第三二二九號ニ依ル」ニ改ム

(参照) 昭和十七年官房第三二八二號ハ遭難海士官以上及候補生ニ臨時手當ノ範圍内ニテ被服物品給與ノ件ナリ(昭和十七年五月二十九日海軍公報(部内限))

官房第五三四八號

當分ノ間海軍軍用郵便所ニ於テハ官公金ノ授受ニ限リ

通常爲替ノ振出及拂渡ヲ爲スコトヲ得

右取扱ニ關シテハ一般通常爲替振出及拂渡ノ規定ニ依ル但シ無料トス

昭和十七年九月四日

海 軍 大 臣

官房第五三九四號

昭和十七年十一月一日ヨリ施行セラルル海軍武官官階及海軍兵職階改正ニ對スル人事取扱ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年九月五日

海 軍 大 臣

一 命課ハ他ニ補命セラルベキ者ノ外ハ別ニ辭令ヲ用

ヒズシテ從前ノ職ニ補命セラレタルモノトス

二 級俸ハ別ニ辭令ヲ用ヒズシテ從前ノ級俸ヲ賜給セラレタルモノトス

三 左ノ名簿ハ次期改版迄其ノ儘之ヲ使用ス

現役海軍士官名簿(追録共)

在郷海軍士官名簿

應召海軍士官名簿

現役海軍特務士官及准士官名簿

在郷海軍特務士官及准士官名簿

海軍豫備士官名簿

應召海軍豫備士官名簿

海軍豫備准士官名簿

(イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ)

海軍公報(部内限) 第四千八百八十七號

昭和十七年九月五日

九五七

<p>四 電報符ハ前號ノ名簿改版迄從前ノモノヲ使用ス</p> <p>五 下士官、兵ニ對スル入籍番號ハ從前ノ儘トシ尙新ニ海軍兵籍ニ入ルベキ者ノ入籍番號ハ從前ノ附與例ニ依ル但シ昭和十七年十一月一日以後入籍又ハ徵兵ヨリ志願兵籍ニ入リタル衛生兵ニ對シテハ志願兵徵兵ニ區分シ各第一號ヨリ順次之ヲ附與ス</p> <p>六 昭和十七年海軍現役兵トシテ徵集ノ海軍看護兵ハ昭和十八年一月十日、同年九月一日海兵團ニ入團後令ナクシテ海軍衛生兵ト改稱ス</p> <p>七 新職階ノ海軍兵ニ對スル實役停年ハ各前後之ヲ通算スルモノトス</p>	<p>官房機密第一四一八號ノ二</p> <p>昭和十七年官房機密第一四一八號中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十七年九月五日</p> <p style="text-align: center;">海 軍 大 臣</p> <p>別表陸戰隊被服ノ部(イ)第二種軍裝著用期間ノ表備考第一項ノ上ニ「一」ヲ、同備考ニ左ノ一號ヲ加フ</p> <p>二 外戰部隊ニ屬スル艦船部隊ニ於テ當直ノ番兵ニハ必要ニ應ジ防著帽ノミ一個ヲ貸與ス</p> <p>同表特種眼鏡ノ部保護眼鏡貸與範圍ノ欄中「南支」ヲ</p>	
<p>「支那」ニ改ム</p> <p>(參照) 昭和十七年官房機密第一四一八號ハ特種被服貸與ノ件ナリ(昭和十七年一月三十一日海軍公報(部内限))</p> <p>(昭和十七年五月二十九日同)</p>	<p style="text-align: center;">○ 通 牒</p> <p>經豫機密第三號ノ九八</p> <p>昭和十七年九月五日</p> <p style="text-align: right;">海軍省 經理局長</p>	<p>關係各所轄官長</p> <p>關係各支店官吏</p> <p>關係各資金前渡官吏 殿</p> <p>外貨軍票ノ引換ニ關スル件通牒</p> <p>南方占題地域ヨリ本邦ニ歸來セル軍人軍屬ニ對スル外貨軍票ノ日本通貨ヘノ引換事務ハ曩ニ經豫機密第三號ノ五四ニ依リ日本銀行本店支店及特定ノ代理店ニ於テ取扱フコトニ通知致置候處今般更ニ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ橫濱正金銀行本店及大阪、神戸、門司、長崎ノ各支店ニ於テモ取扱フコトト相成候條了知相成度</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>一 軍人軍屬ナルコト明ニ認メラルル場合</p>

一 軍ノ身分證明書ヲ所持スル場合  
 一 軍ノ引換證明書ヲ所持スル場合  
 一 前各號ニ掲グル場合ノ外一人一回ノ引換要求高十  
 圓以下ナル場合

經豫機密第三號ノ九九  
 昭和十七年九月五日  
 海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿  
 日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ北部ボルネオミ  
 リ、同クチン及スマトラバレンバンニ設置、來九月十  
 日ヨリ之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

艦本機密第一號ノ九七四〇  
 昭和十七年九月四日  
 海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

四十口徑十二種砲射表ニ關スル件通知  
 四十口徑十二種砲射表ニ於テ一號通常彈改二ニハ一號  
 通常彈ノ射表ヲ二號通常彈改二ニハ二號通常彈ノ射表  
 ヲ夫々使用ノコトニ了知相成度

○ 辭 令

海南警備府附内務事  
 務官兼内務書記官 郡山 義夫

南方政務部兼務ヲ命ス(三十三號) 海軍省  
 支那方面艦隊司令部附ヲ免ス(三十一號) 久野 左直

海軍技師 野間口 兼良  
 同 本村 山三  
 (各通) 同 小林 虎雄

海軍購買名簿調査委員會委員ヲ命ス(四九號)  
 海軍機關大佐 前田 廣吉  
 特設海軍燃料廠補給部勤務ヲ命ス(九四號) 海軍省軍需  
 局)

○ 雜 款

○ 旗艦變更  
 第一遣支艦隊司令長官ハ八月三十一日旗艦ヲ安宅ニ變  
 更セリ

# 海軍公報

(部内限) 第四千八百八十八號

海軍大臣官房

昭和十七年九月七日(月)

○ 令 達

官房機密第一二七五號

左表ニ依リ海軍機雷學校特修科學生ヲ採用ス

昭和十七年九月七日

海 軍 大 臣

特 修 科 目	採 用 資 格	入 校 期 日	採 用 員 數			
			横須賀鎮守府	吳鎮守府	佐世保鎮守府	舞鶴鎮守府
掃海艇長、驅潜艇長及敷設艇長タルニ必要ナル科目 掌機雷兵又ハ掌水雷兵出身ノ特務中少尉ニシテ掃海艇長、驅潜艇長及敷設艇長タル指揮官ノ識量ヲ附與セシムルニ適スル者		昭和十七年十一月月上旬	二	二	二	一
		昭和十八年二月月上旬	二	二	二	一
		昭和十八年五月月上旬	三	三	三	二
		昭和十八年八月月上旬	三	三	三	二
計			七	七	七	七

海軍公報(部内限) 第四千八百八十八號

昭和十七年九月七日

九六二

修 業 期 間 約 三 月 同 上 同 上 同 上

○通牒

軍務一機密第六八四號

昭和十七年九月七日

海軍省軍務局長  
海軍省兵備局長

關係各廳長殿

通信ノ機密保持ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ屢關係各部ノ注意ヲ喚起セシメラレタル所ナルモ特ニ左ノ件ハ自今充分留意相成様致度

一 親展電報ハ着信者及受報者以外之ヲ翻譯セザルコト

二 内地及作戰ニ直接關係ナキ方面ニ在ル艦船及陸上官衙部隊ニ在リテハ作戰部隊ノ通信ノ傍受及翻譯ハ

直接作戰ニ關係アルモノノ外之ヲ行ハザルコト

三 作戰關係電報ハ其ノ閱覽範圍ヲ職務上直接關係アルモノニ限定シ且之ガ取扱保管ヲ嚴重ナラシムルコト

○辭令

海軍少佐 千木木十三四  
御府獻納品銓衡委員會委員ヲ命ス(海軍省)

○雜款

○學生入校期日  
近ク任命豫定ノ第二十三期選修學生ハ來ル九月二十五日(金)始業式施行ノ豫定ニ付其ノ前日迄ニ入校セシメラレ度  
(海軍經理學校)

○正誤

八月十五日辭令欄八八三頁上段三行目「三好剛太郎」ハ「三好剛三郎」ノ誤

# 海軍公報

(部内限) 第四千八百八十九號

海軍大臣官房

昭和十七年九月八日(火)

## ○ 通 牒

契九機密第二二四號

昭和十七年九月七日

海軍省 經理局

關係各廳御中

下士官兵略綬購入要領ニ關スル件通知

官房第四九三三號ニ依ル首題品ハ左記ニ依リ處理致度ニ付可然取計相成度

記

一 調 製 東京市京橋區京橋一丁目二番地合名會社

越前屋多崎商店及東京市神田區東福田町

一番地株式會社中野商店ニ所要資材ヲ配

給シ製作セシム

二 註 文 海仁會横須賀、吳、佐世保、舞鶴、大湊

各支部ニテ關係各部所要量ヲ取纏メ註文

書(經契第三號ノ五二〇海軍省經理局通

三 販 賣

酒保物品ニ準シ前項海仁會支部配給所又ハ各酒保ニテ販賣ス但シ内地所在艦船部隊酒保ハ必要ノ都度受入ノコトトシ大量ノ準備仕入ヲ行ハザルコト

四 納入及代金決済

多崎商店及中野商店ハ註文書受理後一月以内ニ納入ヲ完了スルモノトス海仁會各支部ハ現品授受ヲ了シ代金請求書受理後十五日以内ニ支拂ヲナスモノトス

五 價 格

海軍省經理局ト多崎商店及中野商店トノ間ニ協定セル單價左ノ如シ

品 名	數量	單 價
略 綬	壹個	〇五

海軍公報(部内限) 第四千八百八十九號 昭和十七年九月八日

九六三



略殺金具一個掛	同	〇九
二個掛	同	壹壹
三個掛	同	壹參
四個掛	同	壹五
五個掛	同	貳貳
六個掛	同	貳五

但シ單價ハ納入先渡價格トス

艦本機密第一號ノ九八一五

昭和十七年九月七日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

四十口徑十四糎砲射表ニ關スル件通知

四十口徑十四糎砲ニテ五十口徑十四糎砲被帽通常彈改一ヲ發射スル場合ニハ四十口徑十四糎砲通常彈ノ射表ヲ其ノ儘使用ノコトニ了知相成度

〇辭令

海軍少佐 藤本 五男  
第一課兼第二課勤務ヲ命ス(海軍省軍務局)  
海軍主計中尉 辻本 大輔  
第五課勤務ヲ命ス(海軍省經理局)

〇雜款

〇司令驅逐艦變更  
第十三驅逐隊司令ハ八月二十七日司令驅逐艦ヲ若竹ニ變更セリ

〇司令潜水艦變更  
第七潜水隊司令ハ九月一日司令潜水艦ヲ伊號第七潜水艦ニ變更セリ

〇事務所設置  
伊號第八十潜水艦艦裝具事務所ヲ九月一日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

〇事務開始  
第八海軍經理部ハ八月十五日事務ヲ開始セリ

〇殘務整理  
第十八驅逐隊殘務整理ハ吳海兵團ニ於テ之ヲ行フ  
追テ郵便物ハ吳海兵團内海軍主計大尉刈谷德治宛發送相成度

## ○開設

横須賀海軍工廠造兵部分工場ヲ九月一日静岡縣沼津市  
本字七通(舊東京人絹會社)ニ開設事務ヲ開始セリ

(横須賀海軍工廠)  
(沼津工廠(假稱)設立事務所)

○八月二十二日以降當分ノ間海防艦占守ノ給與及其ノ  
他ノ經費支拂ハ第十特別根據地隊主計長ヲシテ之ヲ  
掌理セシム

(第一南遣艦隊司令長官)

## ○移轉

廣東在勤海軍武官府ハ八月十九日廣東市沙面地區ニ移  
轉セリ

追テ郵便物發送先ハ第五海軍軍用郵便所第二派出所  
氣付

## ○事務所撤去

驅逐照月艦裝員事務所ヲ八月三十一日撤去セリ

伊號第三十四潜水艦裝員事務所ヲ八月三十一日撤去  
セリ